



参加無料

京都大学東京オフィス（新丸ビル10階）にて開催

第136回京都大学丸の内セミナー

現地×オンライン



ほとけ あかがね

仏と銅 – アフガニスタンにおける 経済開発と文化遺産

令和5年10月6日（金）
18:00～19:30

講演者：稲葉 穰

（人文科学研究所・教授）

現在のアフガニスタンの首都カーブルから南東に40kmほど離れた山中に、世界遺産級の巨大な都市遺跡があります。メス・アイナクと呼ばれるこの遺跡は西暦2、3世紀ころから9世紀くらいまで存続していたと考えられているのですが、大規模な仏教寺院群を中核とする八つもの宗教施設遺跡もそこには含まれており、見事な仏像や壁画も発見されています。南アジアと中央アジアの文化交流の一つの証ともいえるこの遺跡の足下には、しかしながら世界でも二番目か三番目の埋蔵量を持つとされる巨大な銅鉱床が存在しているのです。2007年11月、この鉱山の30年間の採掘権がアフガニスタン政府から中国企業に売却されたことから、この地に世界の考古学者の注目が集まりました。中国企業が予告した採掘開始時期は2013年。採掘は露天掘りで行われると予告されました。そこで遺跡群を救うべく、急遽、緊急発掘が開始されたのですが、同時に、世界的な文化遺産の保全を訴えて銅鉱床の採掘方法を坑内掘りに変更するように求める運動も起きました。

1979年の旧ソ連軍の侵攻以来、40年以上の長きにわたって形を変えつつ続くアフガニスタンの戦乱は、国土を荒廃させ、さらに干魃や大地震などの自然災害がそれに拍車をかけました。2001年に第一次ターリバーン政権が崩壊した後、国際社会の後押しを受けて成立した新政府は、戦乱によって生産手段を失い、貧困に苦しむ国民の生活を向上させるべく、新たな経済開発の方途を模索したのですが、アフガニスタンの山岳に眠る総額数兆円の価値を持つとされる鉱物資源は、そのための極めて貴重な外貨獲得手段として期待されています。しかし一方でメス・アイナクの都市遺跡群は人類の貴重な文化遺産として保全されるべきでもあります。そもそも周囲から孤立した山岳の中に鉱山採掘のための居留地が出来ると言うのは理解できるとしても、想定される人口に不釣り合いなほどの規模の仏教寺院群がなぜここに存在しているのか。いわゆる前近代都市社会の成立と発展というプロセスや、宗教遺跡と都市の関係と言った、社会史的文化的問いを考えるための非常に重要な手掛かりが、そこにはあるはず。規模の大小はあれ、開発と文化遺産保護とはしばしば対立するイシューであり、その適切な解決はアフガニスタンだけでなく世界中で模索されている課題でもあります。

本セミナーでは遺跡群を取り巻く政治的経済的状況だけでなく、文化遺産としてのメス・アイナクの意義と未来について紹介できればと考えています。



図1 メス・アイナク近傍

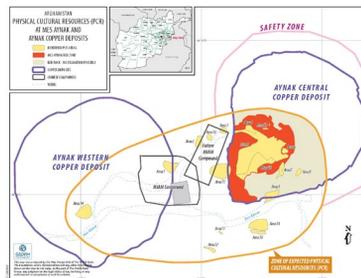


図2 メス・アイナク遺跡と銅鉱床



図3 メス・アイナク出土菩薩半跏思惟像



図4 立仏像下半身



図5 仏塔基壇部



図6 仏頭塑像



図7 メス・アイナク
出土貨幣



図8 彩色貴人像頭部

(図1, 3-8 © Anna Filligenzi; 図2 © Map Design Unit, World Bank 2013)



京都大学研究連携基盤
Kyoto University Research Coordination Alliance

受講申込みはこちらから 「京都大学研究連携基盤」で検索

<https://www.kurca.kyoto-u.ac.jp/seminar>

京都大学丸の内セミナー 開催予定一覧

開催回	日時	講演者 所属	講演タイトル	講演者
第128回	令和5年2月3日(金)	東南アジア地域 研究研究所	国際写真電送と新聞報道 —山川出版社企画の高大 連携プロジェクトの成果 から	貴志 俊彦 教授
第129回	令和5年3月10日(金)	化学研究所	エキゾチックな原子核を 造る・観る	塚田 暁 准教授
第130回	令和5年4月7日(金)	医生物学研究所	ウイルスの増殖機構を 電子顕微鏡で視る	野田 岳志 教授
第131回	令和5年5月12日(金)	経済研究所	取引仲介の経済学： ヒト、モノ、カネの 連結を強靱化する	渡辺 誠 教授
第132回	令和5年6月2日(金)	複合原子力科学 研究所	水素と水と地球の 46億年の物質学	奥地 拓生 教授
第133回	令和5年7月7日(金)	防災研究所	豪雨と崩壊:新時代の 斜面災害予測	松四 雄騎 教授
第134回	令和5年8月4日(金)	高等研究院 物質— 細胞統合システム 拠点/理学研究科	無機物に分子が組み込ま れ、生まれる新材料 「超セラミックス」	堀毛 悟史 連携主任 研究者/教授
第135回	令和5年9月1日(金)	エネルギー理工学 研究所	雲外蒼天 “フュージョン エネルギー”は雲を突き抜 けるか	稲垣 滋 教授
第136回	令和5年10月6日(金)	人文科学研究所	ほとけ あかがね 仏と銅—アフガニスタン における経済開発と文化 遺産	稲葉 穰 教授

※お申込みは各開催日の約3か月前を予定しております。

講演者・講演タイトルが決定次第、研究連携基盤HPに掲載いたします。